



# 平成三十一年度要求乳価

## 七・五〇円/kg以上の引き上げを!!

生乳生産基盤の維持・復元は

家族経営層の増産意欲の復活が基本

### ■要求乳価実現のための整理事項

#### 〔一〕基本事項

中国生乳販連(代表理事会長 岡田 穂積)は、去る九月二十一日(金)、理事会、生乳受託販売委員会を開き、各取引乳業者に対して平成三十一年度生乳取引価格の引き上げ改定を求めて乳価交渉に入ることを決定し、十二月末日迄には、各乳業者との交渉を終えたいとして行動に入った。

乳価引上要求単価は、飲用等向け(対象用途は、飲用牛乳向け、醗酵乳等向け、生クリーム向け)生乳一キログラム当たり七・五〇円以上としている。

同連では、要求単価の実現を求めて、岡山会場、広島会場に各乳業者の参加を求めた「酪農乳業定例会議」を開催し、ここでは要求乳価の実現を図りたいとして、以下の「要求乳価実現のための整理事項」に沿って丁寧な説明を加えて乳業各社の担当者に理解を求めた。

広島会場は、去る十月十二日(金)RCC文化センター(広島市)にて行われた。

#### 一 生乳需給及び弱体化した生乳生産

基盤の実態に鑑み、子牛等の副産物に依存した経営から生乳部門で再生産が可能な乳価の実現により基盤復元への機運を醸成すると共に、その推進源は酪農家戸数の大衆を成す家族経営層の増産意欲の復活に置く。

#### 二 平成三十一年度乳価交渉において

は単なる経費増高への対応に加え、経営資金の造成による設備投資及び搾乳牛資源の復元、更には、酪農後継者及び酪農への就農志望者の育成等、中長期的な生乳生産基盤の安定化をも踏まえた乳価とする。

#### 三 災害等不測の事態におけるCS機能の再評価及びHACCPの制度化への対応に当たり、その対象となる生乳輸送・CS事業等の流通コスト増をも踏まえた乳価を要求する。

乳価交渉のスケジュールとしては十二月内までの決着を念頭に取り組む。

#### 四

乳価交渉の円滑化に資するため流通・小売及び消費者への理解醸成活動に積極的な取組みを行う。

#### 五

#### 〔二〕要求乳価の設定

##### 一 要求乳価の考え方

(一)近年の乳価交渉において最終値上げとなった平成二十七年の生乳生産費調査結果(国調査)の都府県版を基準に置き、その後、直近までの経費等の推移をベースとして設定する。

##### (二)前(一)の経費等の推移において、

公的データの入手可能な物財費(流通飼料費、乳牛償却費、光熱動力費)及び副産物価格に加え、中販連は新たに労働費の動向を追加する。

(三)喫緊の課題である生乳輸送事業の安定化及び安全・安心に係る事業の強化等に資するため、主要燃料

である軽油価格の平成二十七年  
度から三十年度にかけての動向及び  
三十年度の労賃交渉において社会  
的に容認された輸送業界の事情等  
を勘案して前(二)の要求額に計算  
する。

二 要求乳価試算

(一)労働費

民間主要企業の春季賃上げ交渉に  
おいて平成二十六年度～三十年度  
にかけて二・〇%以上の賃上げ率  
の妥結で推移している(厚労省：  
春季賃上げ集計)。

このため本試算において平成  
二十七年度をベースに二十八～  
三十年度の三年間を対象に単年度  
二%の労賃単価の上昇(三年間で  
六・二%)を適用。

労働費の上昇単価一・二円/kg(表  
1参照)

(二)全算入生産費

①平成二十七年の生乳生産費調査  
結果をベースに主要費目である流  
通飼料費、乳牛償却費、光熱動力  
費及び副産物価格は毎月の公的  
データにおける当該費目の価格動  
向を適用して三十年度の費用見通  
しを試算

②平成三十年度の費用見通しは四  
七月まで公的データを実績値とし  
て年度見通しを試算。

③労働費は中販連調べ…前二の

(二)参照 一・二円/kg

④その他費用(表二のe欄)にはa  
d以外の種付け料、敷料費、建物  
費、支払利子・地代、自己資本利  
子、自作地代等が該当する。

⑤以上の算定要素を適用した平成  
二十七年と三十年度の全算入生  
産費は(表2)の(一)、(二)の通り。  
全算入生産費  
六・二円/kgの上昇…A

(三)生乳輸送事業の安定化及び

安全安心等に係る経費

(ア)生乳輸送事業

①燃料費(軽油価格)の上昇影響試算

◎全国平均の産業用軽油価格は平成  
二十七年九〇・四円/l(十二ヶ  
月単純平均)から三十年度には  
百七・九円/lへと十七・五円/l  
の上昇。

◎仮定…タンクローリーの走行距離  
/lを四・五km(十トン車ベース)、  
一日の走行距離を二百五十km/  
台。必用燃料二百五十km÷四・五  
km=五十五・五l/台

◎平成二十七年から三十年度にか  
けての燃料費の増高額=〇・九七  
円/l…B

(一〇七・九円-九〇・四円)×  
五十五・五l÷十トン=〇・九七  
円/kg

②平成三十年度の賃金値上げ影響試  
算

◎運輸業界の妥結額一万四円/月、  
三・三二%上昇(主要企業全平均  
二・二六%上昇)

◎仮定…一人の運転手が十トンロー  
リーを一ヶ月間(三十・四日/月)  
運転した場合の輸送量=三百四十  
トン

◎生乳1kg当りの上昇=〇・三元/  
kg(二万四円÷三百四トン)…C

③輸送事業に係る費用上昇一・〇円  
…D=(B+C)

(イ)安全安心等への対応に係る費用〇・  
一五円/kg…E  
乳成分・風味の安定化(路線再編、  
検査目指導体制の強化)及びCS  
運行経費増高への対応等  
(ウ)輸送及び安全安心に係る経費一・  
一五円/kg…F=D+E

【三】値上げ要求乳価(単価)：円/kg

(ア)全生乳換算七・二五円/kg

(イ)飲用等向け換算七・五十円/kg以上  
…G=A+F

①対象用途飲用牛乳向け、醗酵乳等  
向け、生クリーム向け

②飲用等向け比率

(九十五～九十七%を想定)

③値上げ要求単価七・五〇円/kg以  
上(七・六三元～七・四三元/kg)

<表1>平成30年度における労働費試算 (中販連調べ)

	a	b	c=b/a	d=b/e	e
	労働時間 (時間/搾乳牛)	労働費 (円/搾乳牛)	労賃単価 (円/時間)	労働費単価 (円/kg)	実搾乳量 (kg/搾乳牛)
平成27年度	119.75	184,446	1,540	21.2	8,716
平成30年度	119.75	195,672	1,634	22.4	8,716
H30-27年度	0	11,226	94	1.2	0
H30/27年度	0	106.1%	106.1%	105.7%	0
備考	平成27年度生産費調査結果を据置	30年度は27年度調査結果に6.1%を乗じた	30年度は27年度調査結果に6.1%を乗じた	生乳1kg当りの労働費	平成27年度生産費調査結果を据置

(参考)労働対価の比較試算

	A	B	C	D=B/C
	年齢	年収	年間労働時間	労働対価
勤労者	55~59歳	6,290千円	2,080時間	3,024円
酪農経営者	59.2歳	8,303千円	2,788時間	2,978円
資料	勤労者:民間給与の実態調査結果(国税局)平成27年7月公表 酪農:平成27年度牛乳生産費調査結果(農水省)平成28年12月公表			
年齢(A)	勤労者:国税局調査における年齢区分...酪農の年齢に相当する階層 酪農:平成29年度全国酪農基礎調査の都府県平均年齢			
年収(B)	勤労者:55~59歳の平均年収 酪農:搾乳牛1頭当りの所得×搾乳牛頭数(39.6頭/戸)×70% *70%は家族労働時間の男女合計に占める男性分の割合			
労働時間(C)	勤労者:40時間(法定労働時間/週)×52週/年 酪農:70.42時間(労働時間/搾乳牛)×39.6頭(搾乳牛頭数)			
労働対価(D)	1時間当りの対価(B/C)			

<表2>平成27年度~30年度にかけての生産費の動向(試算)

(1)搾乳牛1頭当り

(単位:円・%)

費目等	平成27年度 (実績)	平成30年度(試算)			
		金額	H27年度対比	H27年度差	
a 流通飼料費	418,684	437,592	104.5%	18,908	
内訳	配合飼料	223,044	212,488	95.3%	-10,556
	その他流通飼料	195,640	225,104	115.1%	29,464
b 乳牛償却費	98,051	157,611	160.7%	59,560	
c 光熱動力費	27,652	33,036	119.5%	5,384	
d 労働費	184,446	195,672	106.1%	11,226	
e その他	188,107	188,107	100.0%	0	
f 副産物価格(子牛)	63,812	105,614	165.5%	41,802	
g 全算入生産費	853,128	906,404	106.2%	53,276	

1頭当り搾乳量(kg/年度)	8,716
----------------	-------

(2)生乳1kg当り

(単位:円・%)

費目等	平成27年度 (実績)	平成30年度(試算)			
		金額	H27年度対比	H27年度差	
a 流通飼料費	48.0	50.2	104.5%	2.2	
内訳	配合飼料	25.6	24.4	95.3%	-1.2
	その他流通飼料	22.4	25.8	115.1%	3.4
b 乳牛償却費	11.2	18.1	160.7%	6.9	
c 光熱動力費	3.2	3.8	119.5%	0.6	
d 労働費	21.2	22.4	106.1%	1.2	
e その他	21.6	21.6	100.0%	0.0	
f 副産物価格(子牛)	7.3	12.1	165.5%	4.8	
g 全算入生産費	97.9	104.0	106.2%	6.1	

(注)平成30年度試算における流通飼料費、乳牛償却費、光熱動力費及び副産物価格は国公表資料の4~7月までの実績をベースに年度見通しを試算。